特集❶

若者と地域を結ぶ長期インターンシップの可能性

横山　史
NPO法人 Eyes
代表理事
（松山市）

インターン生の
プレゼンテーションを聞く社内会議

インターンシップとは何か

インターンシップとは、「在学中の学生が、自分の専攻や将来のキャリアと関連した就業経験を、一定期間行うこと」と定義されています。教育実習や工場実習、医者・美容師の研修など、特定専門分野では古くから実施されてきました。近年では幅広い専攻の学生が、多様な業種で実施する機会が増えています。

インターンシップには、実施目的により様々な形態があります。例を挙げると「見学体験型」「採用直結型」「課題解決型」などと呼ばれているものがあります。また期間についても、1日間から数週間、さらには半年以上に及ぶものまで多様です。

参加するための方法もいくつかあり、①大学、②経済団体、③企業、④民間のコーディネート機関などが主な経路として挙げられます。最近は職業意識や社会人基礎力を育むような実践的教育を取り入れる大学が増えており、単位として認定されるプログラムもあります。愛媛県内でも4大学インターンシップ連絡協議会が設立されています。

このように、一口にインターンシップといっても、その形態は多様であることを認識した上で、学生も企業も自らの目的に合ったインターンシップに参加することが大切だと考えています。

長期実践型インターンシップ

NPO法人Eyesは、民間コーディネート機関としてインターンシップの機会づくりに取り組んでいます。一般的に実施されているインターンシップは1～2週間が中心ですが、学生への教育効果と受け入れ側のメリットを考えて、プログラムの長期化に取り組んでおり、平均5ヶ月程度のインターンシップを設計しています。中立的な立場で学生・受け入れ側両者のメリットが最大化できるように、貢献できる存在でありたいと活動しています。

インターンシップによって、学生が地域の社会人や産業と関わる機会を増やしたいと考えています。愛媛で大学生活を過ごす学生に加え、愛媛を離れ県外の学校に通う学生も、長期休暇を活かして故郷でインターンシップに参加できる機会になればと思います。

インターンシップの意義

社会経験のない学生に関わることで、受け入れ側に利点はあるのでしょうか。もちろん上手くいかないケースもあり、その主な理由としては、両者の目的が合致していない、コミュニケーションが少ない、業務の目的を共有していない、業務が難しすぎる、などが挙げられます。しかし適切な準備とフォローを行うことで、双方にとって意義のある取り組みになります。

受け入れ側にとってインターンシップの最大の意義は、社会経験のない人材を一定期間で戦力化する試行機会であり、

■チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト　http://www.challenge-producer.net/
■プロジェクト・インデックス　http://www.project-index.jp/

従業員の人間的成長の場としての組織の役割を強化することだと考えています。学生が直接仕事の成果を出すのではなく、インターンシップ生と関わることで、組織内に潜在していた発想やエネルギーが引き出され、職場の活性化、さらには新しい事業が生まれるきっかけになります。学生への教育効果についても、就業意識の醸成に留まらず、自律型人材への自己変革を促し、価値創造できる人材育成を目標にしています。

期間限定の社員として働くインターン生

地域におけるインターンシップの可能性

島根県海士（あま）町という島には、3年間で約150人がIターンで移り住んでいます。この背景の一つに、東京の渋谷から海士町へ若者を乗せたバスを走らせ、都会の若者に島の小中学校で授業をしてもらうというプログラムがあるということです。Iターンした20代の若者に話を聞くと、そのプログラムがきっかけで島の人や潜在力に魅了され何度か島を訪れるようになり、ついには移住して島の海産物を扱うビジネスを立ち上げたということです。「自分はよそ者だから失敗を恐れずチャレンジ出来る。それは先祖代々この土地に住んでいる人には難しいこと。島の人が期待して受け入れてくれるからこそ、多くの若者が可能性を感じてやって来る」と話る言葉が印象的でした。

地域づくりには、「若者・よそ者・ばか者」が必要だとよく言われています。その土地、その組織に一生骨を埋めるつもりはないが、まずは一定期間ここでチャレンジしてみたい、そんな若者を受け入れる仕組みをつくることが、未来につながるのではないかと感じています。インターンシップ生もまた、企業にとって、地域にとって、まさにこの「若者・よそ者・ばか者」に該当します。期間限定のよそ者だからこそ、社員や地元の人が気付かない価値を率直に伝えることができる存在と言えるのではないでしょうか。

地域内に若者を育む人や場が増えることで、若者の地域外への流出を防ぎ、逆に愛媛に意欲ある若者が集まることにつながるのではないかと考えています。地域の未来を考えるにおいて、インターンシップが持つ可能性は大いにあると感じています。

オリム社員とインターンシップ生

■NPO法人 Eyes　http://www.npoeyes.net/
http://npoeyes.blog15.fc2.com/